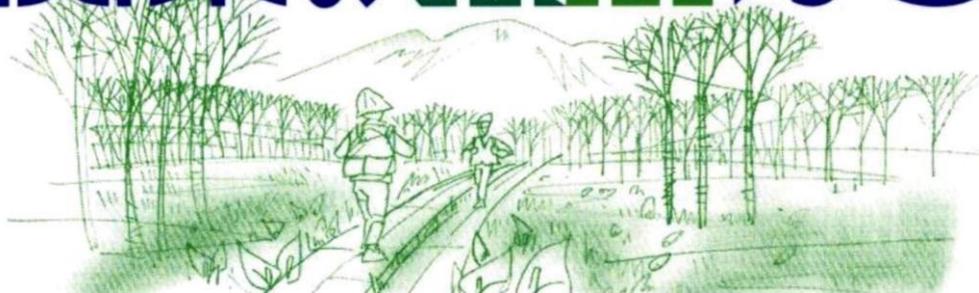


令和8年3月1日

第261号

# 関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25  
TEL.027-210-1158  
<https://www.nnya.maff.go.jp/kanto/>



【写真】「男体山（前白根山から男体山と中禅寺湖を望む）」（日光森林管理署）

- ◎ 森林・林業技術等交流発表会を開催 技術普及課 ・ ・ 1
- ◎ 硫黄島の国有林野 小笠原総合事務所国有林課 ・ ・ 5
- ◎ 森林管理署等からのたより 静岡森林管理署 ・ ・ 6
- ◎ 森づくり最前線 磐城森林管理署 原町森林事務所 地域統括森林官 永井 公彦 ・ ・ 7



関東森林管理局では、例年、森林・林業の活性化と課題解決を目的として、森林管理局署職員のほか地方自治体・大学生・研究機関など幅広い関係者の皆様にご参加いただき、技術開発や取組成果を発表し情報共有を図る「森林・林業技術等交流発表会」を開催しています。今年で70回目となる本会は、令和8年2月4日・5日の2日間、関東森林管理局大会議室にて実施しました（特別発表・特別講演は当日のみオンライン配信を実施）。



松村関東森林管理局長の開会挨拶

発表会当日は多くの皆様にご参加いただけるよう、事前に特設ページを開設し、スライド発表の概要やポスター発表をホームページで公開しました。併せて、ポスター発表への投票、発表者への応援メッセージ、発表会運営に関するアンケートも実施しました。



スライド発表の様子

今年度は、スライド発表19課題、ポスター発表20課題の合計39課題が発表されました。2日間で延べ400名以上が来場いただき、オンラインにおいても最大140名以上の方にご視聴いただきました。

発表会2日目には、(国研)森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター 大平峰子氏より、「林木育種と苗木生産の基礎知識－森づくりを支える技術と新しい展開－」と題した特別講演をいただきました。

スライド発表の審査は、森林総合研究所の荒木審査委員長をはじめとする7名の有識者等による審査委員会が実施し、最優秀賞1課題、優秀賞4課題、官民連携賞1課題、技術普及賞1課題を選出しました。最優秀賞の群馬森林管理署「不法侵入への挑戦～林道の安全対策～」について審査委員からは、「現場の課題に対し、コストをかけず効果的な対策を講じ、成果を数字で示している点が評価できる」「どこでも普及可能で交流の場にふさわしい」などの講評をいただきました。また、失敗事例の共有の重要性や、過去の資料の再評価が新たな課題解決につながる可能性についても期待が寄せられました。



ポスター発表では、限られた紙面で情報を効果的に伝えるための工夫が多く見られ、写真・グラフの配置などに創意工夫が光りました。コアタイムでは活発な議論が行われ、発表者・聴講者ともに熱心に参加している様子が印象的でした。賞については、特別審査員10名と一般参加者213名による投票の結果、総合優勝ポスター賞1点、優秀ポスター賞2点、特別賞3点が選出されました。



ポスター発表者による説明の様子

現在、関東森林管理局ホームページにてスライド発表の映像を公開しており、今後、発表収録集も順次掲載予定です。ぜひご覧ください。

最後に、発表会にご参加いただいた皆様に心より感謝申し上げます。今後とも、本発表会を通じて幅広い関係者の皆様との交流を促進し、新たな技術や研究成果の共有・普及に努めてまいります。



表彰式後の記念撮影

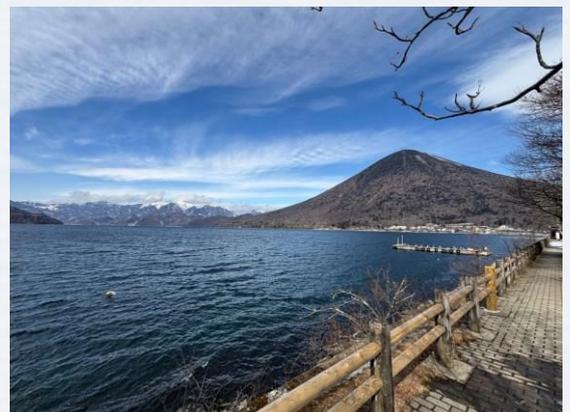
(※ スライド発表課題一覧表は3ページ、ポスター発表課題一覧表は4ページに掲載しております)

## 今月の表紙

### 「男体山」(日光森林管理署)

男体山は、栃木県北西部、日光連山の西側にそびえる栃木県を代表する山で、標高は2,486mあります。成層火山らしい、ゆるやかな裾野を広げる円錐状の山体は、関東一円から望まれ、古くから山岳信仰の対象として知られています。

山頂には日光二荒山神社の奥宮があり、眼下に中禅寺湖、遠くに富士山を眺めることができます。男体山の裾野に広がる奥日光は、国内有数の景勝地。春から初夏には、ツツジやズミの花、盛夏には避暑、秋には紅葉を求め、年間を通じ全国から多くの観光客が訪れます。

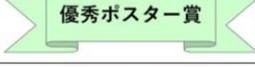
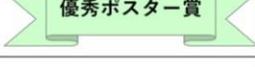


中禅寺湖畔から男体山を望む

令和7年度 森林・林業技術等交流発表会 スライド発表課題一覧表

課題番号	課題名	所属	発表者及び共同発表者	部門
S1	地上型3Dレーザを活用した森林データベースの作成と利用の検討	資源活用課	小池 遊喜 正田 一真	森林技術部門
S2	獣害防止ネット柵の下草管理方法	群馬県林業試験場	山田 勝也	森林技術部門
S3	現地検討会を通じた技術者育成について	治山課	丸山 寿隆	森林技術部門
S4	コンテナ苗木の生産技術向上に向けた取組	群馬県渋川森林事務所	星野 勝	森林技術部門
S5	超緩効性肥料を用いたエリートツリー等コンテナ苗の活用	森林技術・支援センター	平尾 翔太 仲田 昭一	森林技術部門
S6	大苗植栽による下刈省略の検証試験 第2報	○矢板市農林課 ●塩那森林管理署	○市川 貴大 ●金澤 裕子 ●伊藤 香里	森林技術部門
S7	UAVレーザーを活用した施設維持に向けた現地測量の省力化について	上越森林管理署	鈴木 夢叶	森林技術部門
S8	ツリーシェルターでヒノキを育てる	千葉森林管理事務所	勝川 誠	森林技術部門
S9	下刈りの機械化のための自走式下刈り機による地拵えに関する検証	○合同会社ビスベル ●静岡県富士農林事務所	○馬渡 純 ●辻 菜緒	森林技術部門
S10	くくりわなによるシカ捕獲の2地点比較 (伊豆半島と箱根・丹沢地域)	○伊豆森林管理署 ●神奈川県自然環境保全センター	○藤垣 遼大 ●小澤 海斗	森林保全部門
S11	奥日光西ノ湖畔保護林に平成11年に設置したシカ柵内の25年後の植生変化	日光森林管理署	野口 光三	森林保全部門
S12	"Late-stage radiocesium dynamics trends in Fukushima conifer forests" (福島の新葉樹林における近年の放射性セシウム動態の傾向)	福島大学環境放射能研究所	Vasyl Yoschenko (ヴァシル・ヨシェンコ)	特別発表
S13	森林内の放射線	森林放射性物質汚染対策センター	伊藤 秀晃	特別発表
S14	治山事業実施箇所においてニホンジカが植生に及ぼす影響について	治山課	小松 隼人	森林保全部門
S15	不法侵入への挑戦 ～林道の安全対策～	群馬森林管理署	石栗 英人 北澤 寛	森林保全部門
S16	森林環境教育の持続的な推進に向けて～小学生を対象とした森林教室の現状と課題～	高尾森林ふれあい推進センター	山田 徹 山崎 美輝 磯田 伸男	森林ふれあい・ 民国連携部門
S17	地域と連携した金尾山の森林づくり ～第75回全国植樹祭機運醸成の取組～	埼玉県寄居林業事務所	浅香 義広	森林ふれあい・ 民国連携部門
S18	「君津イオンの森づくり」の 取り組みについての事例紹介	公益財団法人イオン環境財団	山本 百合子	特別発表
S19	瞬間サンプリング法による野生動物の密度推定の試み	○森林総合研究所 ●保全課	○飯島 勇人 ●宮本 まどか	特別発表

令和7年度 森林・林業技術等交流発表会 ポスター発表課題一覧表

課題番号	課題名	所属	発表者及び共同発表者	部門
P1	群馬県北部におけるコウヨウザンとスギの成長比較 	利根沼田森林管理署	野宮 陸 田中 直己	森林技術部門
P2	地域資源の有効活用に向けて ～広葉樹につつまれたなら～ 	日光森林管理署	小松 玄季 本村 颯己	森林技術部門
P3	地域資源の有効活用に向けて ～広葉樹につつまれたなら～ 	群馬森林管理署	井上 ともの 小山 清二	森林技術部門
P4	関東大震災からの復興と治山治水技術の継承	東京神奈川森林管理署	丸山 良太	森林保全部門
P5	千葉森林管理事務所における二ホンノウサギ捕獲の一考察	千葉森林管理事務所	池田 一穂	森林技術部門
P6	東京都) 多摩森林のクマ動向 ～小下沢国有林及び板当国有林内でのクマ出没状況～	日本山岳会 高尾の森づくりの会	大森 茂 山崎 勇 白井 聡一 松隈 茂 早川 憲也	森林技術部門
P7	事故の影響を受けた森林資源の利活用に向けた追加対策案検討と ゾーニングマップ	福島国際研究教育機構	操上 広志	特別発表
P8	森林内での放射性セシウム濃度分布と菌類への放射性セシウム移行	福島国際研究教育機構	佐々木 祥人	特別発表
P9	標準地調査に新提案～円形プロットの検証～	天竜森林管理署	町野 弘明	森林技術部門
P10	防草シートを用いた造林事業の省力化・低コスト化に向けた取り組み	棚倉森林管理署	服部 孝教	森林技術部門
P11	AIで地物検知するQGISプラグインを作った	計画課	柴島 晋司	森林技術部門
P12	OWL調査プロットについて ～撮影時期の違いによる比較検討～ 	下越森林管理署	熊丸 慧	森林技術部門
P13	機関連携による鬼怒沼温原 (奥鬼怒生物群集保護林) での二ホンジカ対策 	○栃木県林業センター ●環境省日光国立公園管理事務所 ◇日光森林管理署	○丸山 哲也 ●吉川 美紀 ◇野口 光三	森林保全部門
P14	希少野生生物の保全と森林施業の両立に向けて ～瀨尻ホソバシャクナゲ稀少個体群保護林での取組～ 	○天竜森林管理署 ●計画課	○弓桁 侑季 ●砂原 美咲	森林保全部門
P15	点検・補修を含めたシカ柵コスト最小化に向けたコスト把握手法の確立	○森林技術・支援センター ●茨城森林管理署 ◇森林総合研究所	○安藤 博之 ○平尾 翔太 ○仲田 昭一 ●中山 優子 ◇飯島 勇人	森林保全部門
P16	村上支署におけるマツ枯れの現状とこれから	下越森林管理署村上支署	渡邊 広幸 中島 伸司	森林保全部門
P17	新工法「木杭根系工法」を用いた森林土木工事の可能性について 	○群馬森林管理署 ●越井木材工業株式会社 ◇株式会社コシブプレザービング	○竹之内 政勝 ○上村 武士 ●清水 賢 ◇壁野 宏司	森林保全部門
P18	BSC工法(土壌藻類)を用いた航空緑化工の現況と考察	山梨森林管理事務所	渡邊 雅弘	森林保全部門
P19	【芝浦創造の森】におけるグリーンスクールの取組みについて	会津森林管理署南会津支署	伊藤 秀明 田中 友希	森林ふれあい・ 民国連携部門
P20	林業における労働災害の未然防止について ～現場から学ぶリスクアセスメント～	天竜森林管理署	小田嶋 信宏	森林ふれあい・ 民国連携部門

# 硫黄島の国有林野

## 小笠原総合事務所国有林課



硫黄島中心部から望む摺鉢山

小笠原総合事務所国有林課での業務は父島列島及び母島列島が主なものとなりますが、火山列島（硫黄島・北硫黄島・南硫黄島）も一部国有林となっており、太平洋戦争の激戦地として有名な硫黄島には、約1千haの国有林野があります。今回は硫黄島の国有林野の現状についてお伝えします。

硫黄島は、戦時中には軍属として残された島民以外は本土へ強制疎開され、戦後は米国の統治期間を経て、1968年に日本へ返還されたものの、以降は自衛隊員や基地の修繕を行う工事関係者のほかは立ち入りが制限されています。火山列島

の名前のとおり、火山活動が活発で、至るところで噴煙を確認することができます。異常な地殻変動が続いており、年間に1メートル以上隆起しているとのこと。

また、水の確保が非常に困難な島でもあり、生活用水は完全に雨水頼りで、湯水が続くと自衛隊員を本土に戻すと共に、大幅な使用制限をかけて対応しているようです。また水道水は、飲料としての利用ができないため、ペットボトルの水が配給されています。

硫黄島では、森林施業を実施していませんが、自衛隊基地施設等を主とした国有林野貸付契約、滑走路等の維持修繕を目的とした骨材のために使用する土石の販売を行っています。国有林課では、貸付地の使用状況や土石販売箇所の進捗を確認するため、2年に1度、硫黄島へ出張しています。本土の自衛隊基地から輸送機に乗り込み、片道2時間30分で硫黄島に到着します。島内には未だに太平洋戦争時の地下壕や兵器の残骸が残されているほか、硫黄島の戦いで亡くなった兵士を慰霊する碑が至るところに設置されています。



海岸部から噴き出る噴煙



硫黄島に残る砲台の遺構

硫黄島は戦時中の攪乱から現在に至るまで、在来種の植樹・外来種駆除等、一切手が加えられておらず、結果、島の約9割の木本類がギンネムやシマグワといった外来種に占領されており、実際に上陸してみると、小笠原らしい豊かな自然は存在せず、異様な光景が広がっています。また、島内には米軍がペットとして持ち込んだと言われるネコが野生化して数多く生息しており、小笠原固有の鳥類やコウモリを捕食しているとの話もあります。



摺鉢山から見るギンネム林

硫黄島からさらに南に約60kmには、小笠原諸島で唯一過去に人が定住した記録がなく原生自然が維持されている南硫黄島があり、鳥類等の移動により硫黄島の外来種が南硫黄島に到達し、独自の生態系を変えてしまうことが懸念されています。

硫黄島、南硫黄島を含む「小笠原諸島」は平成23年に世界遺産に登録されており、今後は、外来種の駆除や固有種の保全方法について検討する段階にきているのではないかと考えています。

## 『森林管理署等からのたより』

～森林管理署等からの取組等を紹介します～

### ●「不法投棄された廃棄物の撤去作業」 ～静岡森林管理署～

当署管内の明神峠（小山町）付近の国有林は、ドライブやハイキングコースとして人気の高い風光明媚な観光スポットですが、過日不法投棄された廃棄物が発見されたことを受け、小山町、静岡県東部健康福祉センター、静岡森林管理署と合同で、令和7年11月13日に撤去活動を行いました。

回収方法は、山林内でゴミを拾い集め大型土嚢に詰め込み、それを引き上げる方法で行い、総勢15名が山中に捨てられた雑誌、食品トレー、廃プラスチック、建物の解体工事に使用する養生ネット、家電、タイヤを回収し、可燃ごみ470kg、不燃ごみ800kg、計1270kg、タイヤ16本を撤去しました。



分別作業の様子

本件は、警察署に通報しており、廃棄物の中に個人が特定できる書類等が多数発見されていて、既に捜査が進められています。不法投棄された廃棄物の処理には、多額の費用と労力がかかるだけでなく、景観・森林生態系が大きく損ないます。



撤去前



撤去後

今後も関係機関と協力しながら、情報共有・捜査協力など行い不法投棄対策を実施していきます。

### GREEN×EXPO 2027 ～幸せを創る明日の風景～

2027年3月19日（金）から9月26日（日）まで、GREEN×EXPO 2027が神奈川県横浜市で開催されます。日本における最上位クラス（A1）の開催は1990年大阪花の万博以来、37年ぶりです。1,000万株の花と緑が世界中から集結して「幸せを創る明日の風景」を創り出し、様々な展示や体験を通じて、グリーン社会や自然との共生について考えるきっかけをもたらします。

詳細はこちら ▶ <https://expo2027yokohama.or.jp/>



メインガーデンイメージ（2025年12月現在）  
画像提供：GREEN×EXPO協会



©Expo 2027

# 森づくり最前線

磐城森林管理署 原町森林事務所 地域統括森林官 永井 公彦



霊山（りょうぜん）山頂より

私が勤務する原町森林事務所は、磐城森林管理署が所管する福島県浜通り地域の北部に位置し、南相馬市全域に所在する国有林（約 95 千 ha）を管理しています。

また、隣接する相馬市・新地町を管轄する中村森林事務所、飯舘村を管轄する草野森林事務所森林官の事務取扱も拝命していることから、管内を把握することも含め、両事務所に所在する著名な山を踏破してみました。

一つは、相馬市に所在する標高 825m の霊山です。「りょうぜん」と読みます。天台宗の拠点として栄え、南北朝時代には軍事的拠点となるなど歴史的にも貴重であり、様々な奇岩が楽しめる山です。昨年 12 月に NHKBS の「にっぽん百低山」という番組で放送されたときは、ちょうど紅葉が始まっていてきれいな景色が紹介されました。

もうひとつは飯舘村に所在する山津見神社本殿が鎮座した標高 705m の虎捕山です。中腹には山津見神社の本殿があり、山の神「大山津見神」を祀っています。

震災以降、管内では実証試験を除いて森林施業を実施していませんでしたが、地元自治体から国有林に対しては「復興・再生の牽引役となって欲しい」との要望もあり、今年度は除伐 2 類を実施し、来年度は搬出間伐を検討しています。

また、管内の人工林約 6,500ha のうち約 650ha が分収林となっており、契約者から伐採要望のあった林分は、放射線量の少ない箇所から随時公売を実施していく予定となっています。



霊山 学問岩



収穫調査へ向かう筆者

他の地域では最近よく聞かれるクマの目撃情報も当管内はほとんどなく、また署で調達したスマホには QField アプリに国有林の地図と調査簿情報が取り込まれているため、山に迷うことなく安全・便利でとても助かっています。

20 年振りの森林事務所勤務ということもあって慣れない業務に悪戦苦闘しながら、充実した日々を過ごし森林官ライフを楽しんでいます。